

2019  
年度

第25回 FDフォーラム

# 主体的な大学の あり方を考える

**日程** 2020年2月29日(土)・3月1日(日)

**会場** 龍谷大学 深草キャンパス

**シンポジウム①** いま、あらためて「大学改革」を考える

**シンポジウム②** SDGs と大学  
～高等教育を通じた社会課題の同時解決はいかにして可能か？

申込期間: 2020年1月7日(火)～1月30日(木)

大学コンソーシアム京都加盟大学・短期大学先行申込期間: 2019年12月13日(金)～12月25日(水)

主催:  公益財団法人 大学コンソーシアム京都  
The Consortium of Universities in Kyoto

後援: 文部科学省・京都府・京都市

# 主体的な大学の あり方を考える

第25回目を迎えるFDフォーラムの今回の全体テーマは「主体的な大学のあり方を考える」です。第1回のフォーラムが開かれた1995年と比べると、大学教育を取り巻く状況はますます厳しさと複雑さを増しています。そして、大学は、新たな環境に合った形へと変容することを常に求められてきました。そのような中で、大学の主体性について再考してみる必要があるのではないかと、本年度の企画委員会はこのテーマを採択しました。このFDフォーラムが、日本の大学がこれまで進んできた道のりと、これから進む方向について、今一度考えてみる機会を提供できれば幸いです。

分科会では、それぞれの分野で活躍されている方々を登壇者として厳選し、本年度も幅広い多様なテーマを取り扱います。ポスターセッションや情報交換会も含め、皆さまの積極的なご参加を期待しています。

第25回FDフォーラム企画検討委員会

委員長 瀧本 真人（龍谷大学 国際学部 教授）

## ●スケジュール

	時間	内容	会場
2月29日 <sup>㊥</sup>	12:00	受付開始	3号館
	13:00~17:00	シンポジウム①・②	
	17:30~19:00	情報交換会	22号館 地下食堂
3月1日 <sup>㊦</sup>	9:00	受付開始	わけんかん 和顔館
	10:00~12:00	分科会(午前の部)	
	12:00~13:30	休憩 ポスターセッションコアタイム	
	13:30~15:30	分科会(午後の部)	

※シンポジウムは①か②のいずれか一つへの参加となります。

※分科会は、午前と午後で同じ分科会への参加となります。申込みをされた分科会以外には参加することができませんのでご注意ください。

※ポスターセッションコアタイムには、発表者がポスター前で参加者の質問に答えます。

※荒天等により、スケジュールの変更、または中止の場合がございます。ご了承ください。

シンポジウム①

会場: 3号館 3F 301教室

定員 470名(加盟校優先定員:250名)

## テーマ いま、あらためて「大学改革」を考える

FDフォーラムの目的は、基本的に各大学でのFDを進める際に有意義な情報を提供、共有することにある。一方、各大学のFD担当者の中には、そもそも学内でFD研修などを実施する際「参加者が少ない」「学内での理解が得られない」などの思いを持つものが少なくないであろうし、場合によっては担当者自身が「上から言われて義務として業務をこなしている」と考えたり、FDやいわゆる「大学改革」を推進する国や中教審のあり方に疑問を感じている場合もあろう。本シンポジウムでは、大学をめぐる昨今の状況やFDをはじめとしたいわゆる「大学改革」の潮流や意義について、一度立ち止まり、考える。FDフォーラムのような場では、FDや大学改革に対するそもそもの疑問や違和感は議論しにくいかもしれないが、そのような思いに向き合うこともまた、FDフォーラムの重要な意義であると考えられているからである。

### シンポジスト



**小澤 弘明氏** 千葉大学 副学長/国際教養学部 教授

#### 経歴

東京大学大学院社会学研究科修了。東京外国語大学を経て千葉大学文学部勤務。2003年から教授。2014年から千葉大学副学長(教育改革)、2016年から新設の国際教養学部長を兼務。

#### 主な活動、著書

専門は歴史学、国際関係論。ヨーロッパ近現代史、新自由主義の世界史、歴史教育に関心を持つ。学会活動として、日本学術会議連携会員(第一部史学委員会)、日本歴史学協会常任委員、歴史学研究会編集長、委員長を歴任。大学問題については、『世界』『科学』『現代思想』などに執筆。



**山田 剛史氏** 京都大学 高等教育研究開発推進センター 准教授

#### 経歴

神戸大学大学院総合人間科学研究科博士後期課程修了。博士(学術)。島根大学教育開発センター講師・副センター長・准教授、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室准教授・副室長を経て、2015年4月より現職。

#### 主な活動、著書

専門は心理学(青年心理学)と教育学(高等教育)。子どもの学びと成長を促す学校教育について研究・開発・実践を行っている。日本青年心理学会常任理事、初年次教育学会理事、大学教育学会代議員。文部科学省大学教育再生加速プログラム委員、東山中学・高等学校学習力強化プロジェクト特別委員など。著書に『学習評価』(共著)玉川大学出版部(2018)、『大学生の主体的学びを促すカリキュラム・デザイン』(編著)ナカニシヤ出版(2016)など。



**渡邊 浩一氏** 大阪経済法科大学 教養部 准教授

#### 経歴

京都大学人間・環境学研究所博士後期課程修了。博士(人間・環境学)。2016年大阪経済法科大学・教養部特別専任准教授兼大学教育開発支援センター所長補佐。2017年より同教養部長補佐。2019年より現職。

#### 主な活動、著書

専門は哲学(近代ドイツ哲学、一般教育の思想史)。著書に『「純粋理性批判」の方法と原理』京都大学学術出版会(2012)、共編著に『哲学をはじめよう』ナカニシヤ出版(2014)、『反「大学改革」論』ナカニシヤ出版(2017)。



**石田 涼氏** 学校法人京都精華大学 理事長

#### 経歴

同志社大学文学部文化学科国文学専攻卒業。佛教大学通信教育部課程本科修了。私立高校教員を経て、1989年学校法人京都精華学園(当時)に事務局職員として入職。1999年~2005年および2008年~2011年常務理事。2014年~2017年専務理事。2017年から現職。

#### 主な活動、著書

入職後最初に配属された教務課で、人文学部必修科目である半年間にわたる国内外オフキャンパスプログラム「フィールドワーク」の仕組みを職員の立場から構築した。2006年のマンガ学部、デザイン学部開設では設置業務をてがける。また、グライ・ラマ14世、オノ・ヨーコ、アッパス・キアロスタミラの招聘イベントにたずさわるほか、『吉本隆明語る 思想を生きる』(DVD, 京都精華大学, 2008)の取材と制作を担当。

### コーディネーター



**山田 創平氏** 京都精華大学 人文学部 准教授

#### 経歴

名古屋大学大学院国際言語文化研究科博士課程修了。博士(文学)。財団法人エイズ予防財団リサーチレジデント、独立行政法人国際協力機構アジア地域短期技術協力専門家などを経て現職。

#### 主な活動、著書

専門は社会学(社会と芸術、地域と人権)。京都市若手芸術家の居住・制作・発表の場づくり事業(HAPS)実行委員、公益社団法人企業メセナ協議会東日本大震災芸術・文化による復興支援ファンド(GBファン)選考委員。編著書に『たたかうLGBT&アート』法律文化社(2016)、共著書に『ジェンダーと「自由」—理論、リベラリズム、クィア』彩流社(2013)など。

シンポジウム②

会場: 3号館 2F 201教室

定員 250名(加盟校優先定員:180名)

テーマ

## SDGsと大学

## ～高等教育を通じた社会課題の同時解決はいかにして可能か?

2015年9月に米国のニューヨーク国連本部で開催された「国連持続可能な開発サミット」で採択された成果文書において、「持続可能な開発目標(SDGs)」が掲げられた。これにより、加盟国は2030年までに環境・貧困・紛争・教育・食糧など、17の目標と169のターゲットについて、目標達成に向けて取り組むことが求められている。果たして、高等教育はどのように貢献できるか、SDGsの基礎的理解の上で、SDGsとは言わずにSDGsの諸目標の達成に関わる実践事例と、社会から寄せられる期待をもとに、未来を拓く挑戦の手がかりを探る。

## 基調講演者



**佐藤 真久氏** 東京都市大学大学院 環境情報学研究所 教授

## 経歴

筑波大学・筑波大学修士課程を経て、英国国立サルフォード大学にてPh.D取得(2002年)。

地球環境戦略研究機関(IGES)の第一・二期戦略研究プロジェクト研究員、ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)の国際教育協力シニア・プログラム・スペシャリストを経て、現職。現在、SDGsを活用した地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業委員長、国際連合大学サステナビリティ高等研究所客員教授、UNESCO ESD-GAPプログラム(PN1:政策)共同議長、特定非営利活動法人ETIC.理事、責任ある生活についての教育と協働(PERL)国際理事会理事、

JICA技術専門委員(環境教育)、IGESシニア・フェローなどを兼務。協働ガバナンス、社会的学習、中間支援機能などの地域マネジメント、組織論、学習・教育論の連関に関する研究を進めている。

## 主な活動、著書

『未来の授業—SDGs探究BOOK』(宣伝会議、監修)、『SDGs時代の教育』(学文社、編著)、『SDGs時代のパートナーシップ』(学文社、編著)、『SDGsと環境教育』(学文社、編著)、『SDGsの基礎』(事業構想大学院大学、共著)、『SDGsの実践—自治体・地域活性化編』(事業構想大学院大学、共著)、『ソーシャル・プロジェクトを成功に導く12ステップ』(みくに出版、共著)、『ESD入門』(筑波書房)、『大都市圏の環境教育』(筑波書房)、『環境教育と開発教育』(筑波書房)など多数。

## 話題提供者



**白石 克孝氏** 龍谷大学 副学長(SDGs担当)・政策学部 教授

## 経歴

1957年11月生まれ、愛知県出身。名古屋大学法学部卒業。龍谷大学法学部助教授、同教授を経て、2011年より龍谷大学政策学部教授。2019年より龍谷大学副学長に就任。

専門は公共政策学。各国の地域政策やパートナーシップの動態、大学と社会の連携による地域づくりについて研究を進めている。

## 主な活動、著書

SDGs担当の副学長として、ムハマド・ユヌス博士との会談を経て、2019年6月20日、ソーシャルビジネスに関する研究拠点「ユヌスソーシャルビジネスリサーチセンター」の開設に携わる。著書に「持続可能な地域実現と大学の役割」日本評論社(2014、共編著)、『連携アプローチによるローカルガバナンス』(2017、日本評論社、共編著)など。



**小辻 昌平氏** サラヤ株式会社 コンプライアンス推進担当課長

## 経歴

関西大学工学部卒業、メーカー勤務、山本孝史代議士の公設秘書を経て、平成10年サラヤ(株)入社。総務、CSR部門に従事し現在に至る。2015年大阪市立大学大学院創造都市研究科修了、現在は同院後期博士課程在学。

## 主な活動、著書

社内でのCSRやSDGsの取組の啓蒙に留まらず、小学校から大学院までの教育機関や各種団体等で、環境教育、CSR、BOPビジネス、SDGsについての授業や講義、講演を通じてサラヤの企業活動を紹介。高柳彰夫・大橋正明編共著「SDGsを学ぶ—国際開発・国際協力入門」法律文化社(2018)。また会社勤務の傍ら市民活動として直木三十五記念館を2005年に設立し事務局長として現在も運営。

## コメンテーター



**熊野 英介氏** アミタホールディングス株式会社 代表取締役

## 経歴

1956年兵庫県生まれ。1979年スミエイト興産(現アミタ株式会社)入社。1993年アミタ株式会社代表取締役就任。「持続可能社会の実現」を掲げ、他社に先駆け事業を開始。2010年アミタホールディングス株式会社代表取締役就任。現在は企業・自治体向けに、持続性を高める統合サービスを展開。提供内容は、環境管理業務のアウトソーシングから森林・里山の利活用を含めた地域循環のモデル構築まで、

多岐にわたる。未来の子供たちの尊厳を守ることをミッションに、豊かな関係性が動力となる新たな社会創出に向けて邁進中。

## 主な活動、著書

著書に「思考するカンパニー」(幻冬舎)、『自然産業の世紀』[共著](創森社)など。2017年より信頼が資本になる社会を目指す、公益財団法人信頼資本財団理事長。

## コーディネーター



**山口 洋典氏** 立命館大学 共通教育推進機構 准教授

## 経歴

1975年静岡県磐田市生まれ。専門は社会心理学、特にグループ・ダイナミクス。ネットワーク型まちづくり、災害復興、サービス・ラーニングなどをテーマにアクションリサーチを展開する。財団法人大学コンソーシアム京都事務局研究主幹、浄土宗應典院主幹、同志社大学大学院総合政策科学研究科助教授・准教授を経て2011年度より現職。2017年にデンマーク・オールボー大学で参加型学習を比較研究。

## 主な活動、著書

著書に「ソーシャル・イノベーションが拓く世界」(法律文化社、共著)、『はじめてのファシリテーション』(昭和堂、共著)など。2019年度より立命館SDGs推進本部事務局長。

## 第1分科会

定員 100名(加盟校優先定員:60名)

## 初年次教育を考える

初年次教育は、学生が初めて出会う大学教育であり、大学での学びへの円滑な移行とともに、その後の専門教育への橋渡しが求められる。その内容は、語学、一般教養、導入科目など多岐にわたり、コミュニケーション能力の育成などを求めることも多い。本分科会では4大学の教員に、初年次教育の現状、課題、取り組みなどを報告いただく。参加者からも情報を提供いただき、大学・学部間での共通点、相違点を知ることで、今後のよりよい初年次教育を考える機会としたい。

コーディネーター 茂見 岳志氏 同志社大学 経済学部 教授  
 報告者 中村 豪氏 東京経済大学 経済学部 教授  
 橋本 理氏 関西大学 社会学部 教授  
 池埜 聡氏 関西学院大学 人間福祉学部 教授  
 川崎 友巳氏 同志社大学 法学部 教授

## 第4分科会

定員 100名(加盟校優先定員:60名)

SDGsと大学教育  
—実践編—

2015年、国連サミットでSDGs(Sustainable Development Goals, 持続可能な開発目標)が採択された。SDGsは世界のさまざまな問題を17に整理したことで、分かりやすく、教育にも取り入れやすくなった。大学教育においても、自分たちの活動と国際問題との接点を見出す、環境問題などの複合的な問題を多面的にとらえるための視点として利用するなどの活用が考えられるが、その具体的な方法論については発展途上である。そこで、本分科会では、関西大学高等部、京都外国語大学国際貢献学部、目白大学人間学部からSDGsを取り入れた教育事例をご紹介いただき、大学の授業でSDGsをどのように活用できるかを考えてみたい。

コーディネーター 畑田 彩氏 京都外国語大学 外国語学部 准教授  
 報告者 松村 湖生氏 関西大学中等部高等部 研究開発部 主任  
 野崎 俊一氏 京都外国語大学 国際貢献学部 教授/コミュニティ・エンゲージメントセンター長  
 中井 達也氏 京都外国語大学 コミュニティ・エンゲージメントセンター 課長  
 石田 好広氏 目白大学 人間学部 教授

## 第2分科会

定員 100名(加盟校優先定員:60名)

大学におけるロボットや  
ICTの活用事例

ロボットやICT(Information and Communication Technology(情報通信技術))の普及により、我々の生活は大きく変化し、大学教育においてもその活用が進められている。教育の質向上、業務の効率化を目指し、ロボットやICTを利用する大学が増加しており、2018年現在、国内の国公私立大学における約60%がLMS(学習管理システム)を導入しているが、米国、英国、韓国と比較すると十分に活用できていない状況である。本分科会では、ロボットやLMSを活用されておられる先生方を招き、活用事例、メリットおよびデメリット、利用における注意点などを紹介していただく。今後の教育改善におけるロボットやICTのさらなる活用方法について議論したい。

コーディネーター 小田 真隆氏 京都薬科大学 生命薬科学系 教授  
 報告者 坂本 尚志氏 京都薬科大学 一般教育分野 准教授  
 須田 宇宙氏 千葉工業大学 情報科学部 准教授  
 瀧本 真人氏 龍谷大学 国際学部 教授

## 第5分科会

定員 40名(加盟校優先定員:25名)

地域社会で生かす大学の  
「多文化共生」教育

グローバル化が進む現代社会において、多文化間での共生は重要な課題となっている。大学教育においては異文化理解、多文化共生、国際理解などさまざまな授業が設けられており、学生たちによる関連活動も多く行われている。本分科会では、多文化共生や異文化関連の授業を担当の先生方に、地域社会で暮らす外国系住民との交流、日本語学習サポートといった学生たちの活動の事例を報告していただき、多文化共生に必要なもの、課題、大学の役割などについて考えていきたい。

コーディネーター 金 基淑氏 京都文教大学 総合社会学部 教授  
 報告者 杉本 星子氏 京都文教大学 総合社会学部 教授  
 島村 典子氏 京都外国語大学 外国語学部 准教授※  
 小島 祥美氏 愛知淑徳大学 交流文化学部 准教授  
 ※プロジェクト共同担当者  
 南 博史氏 京都外国語大学 国際貢献学部 教授  
 青山 恭子氏 福井県立足羽高校 教諭

## 第3分科会

定員 100名(加盟校優先定員:60名)

アクティブラーニングは、  
大学に必要なのか?

近年、いわゆる大学の授業が、従来の受動的な座学から、主体的な「アクティブラーニング」へ、と大きく変化し始めている。ただし、それらの改革について、いわゆる大学人たちは、きちんと自分たちの問題として考えたことがあるのだろうか。たとえば、喧伝される「学修」を経験すれば、「新しい学力」が身につく、「学ぶ意欲」「生きる力」が高まるのか? そもそも「誰が」「どんな目的」で為された改革なのか? そして、いわゆる社会経験が乏しいとされる大学教員たちが、主体的・対話的が求められる現実的な時間を、「容易に」「短時間で」ファシリテートすることが可能なのか? この分科会では、この新しい教育の流れを歴史的に検討し、普遍的で実践的な決して新しくはない教育活動の報告等を通して対峙することによって、大学で学ぶ、とはどういうことなのか、を改めて考えてみる。

コーディネーター 関口 久雄氏 京都先端科学大学 人文学部 准教授  
 報告者 小針 誠氏 青山学院大学 教育人間科学部 教授  
 天野 太郎氏 同志社女子大学 現代社会学部 教授  
 池田 恭浩氏 京都先端科学大学 人文学部 准教授

## 第6分科会

定員 40名(加盟校優先定員:25名)

女性のエンパワーメントから考える  
21世紀の社会を創る大学教育

近年、女子の大学入学者数は増加しており、企業や社会での活躍が期待されている。国連持続可能な開発目標SDGsにも高等教育の推進や女性のエンパワーメントが含まれている。本分科会では、特色あるキャリア教育や支援、ビジネス教育、生涯を見据えたりカレント教育に携わる方々、および、企業で活躍してこられた方からお話を伺う。それを踏まえ、「主体的に学び活動する人材」を育成する大学教育について議論し、21世紀の大学教育のあり方を考える。

コーディネーター 在間 敬子氏 京都産業大学 経営学部 教授  
 報告者 福永 朱里氏 企業経営・広報コンサルタント(元)株式会社バーソ・マーステラ 代表取締役社長  
 神原 理氏 専修大学 商学部 教授  
 竹安 栄子氏 京都女子大学 特命副学長  
 二村真理子氏 東京女子大学 キャリア・センター長/東京女子大学 現代教養学部 教授

## 第7分科会

定員 40名(加盟校優先定員:25名)

### 初めての反転授業 デザインワークショップ

「反転授業に興味はあるが何から始めたらいいのかわからない」、「反転授業を手探りでやってみたものの効果が今一つ感じられない」ということはないだろうか。本ワークショップでは、反転授業とは何か、そのメリット・デメリットを整理したのち、実践事例を具体的に紹介する。また、参加者には、反転授業を導入してみたい授業の流れを整理したものをあらかじめご準備いただき、当日持参していただく。グループワークにおいてそのうちの一つの授業をとりあげ、講義形式の授業を反転授業に「リデザイン」することを通して、デザインの方法を学び、実践知の共有をめざす。

コーディネーター・報告者

田口 真奈氏 京都大学 高等教育研究開発推進センター 准教授

報告者 埴 雅典氏 山梨大学大学院 総合研究部 工学域 教授

古川 智樹氏 関西大学 国際部 准教授

ファシリテーター 澁川 幸加氏 京都大学大学院 教育学研究科 博士後期課程1回生

## 第10分科会

定員 40名(加盟校優先定員:25名)

### モチベーションクライシスと向き合う

※2014年度FDフォーラムにおいて、同一テーマで分科会を実施。  
今回、内容を更新し5年ぶりに開催。

学生たちの大学入学動機とともに大学で学ぶことの意欲低下の検証が必要である。多くの大学ではこれら学生への抱える悩みや不安などに対応するためにさまざまな支援策が実施されていると思われるが、その策がどこまで効果を発揮しているのか、事例を持ち寄り確かめたい。例えば、修学支援としての取り組みと課題、学習支援のための取り組みと課題、ピアサポートによる取り組みと課題などが考えられるが、モチベーションクライシスに向き合い、学生たちを支援していく場合には、学生の保護者や関係機関との連携も必要であろう。今回は、大学全体としての取り組みの必要、教員間での連携と協働で行う連携支援の必要性についても考えていく。(モチベーションクライシス=大学生の学習に対する意識の危機的な低下とする)

コーディネーター 三好 明夫氏 京都ノートルダム女子大学 現代人間学部 教授

報告者 永野 典詞氏 九州ルーテル学院大学 人文学部 教授

眞砂 照美氏 佛教大学 社会福祉学部 教授

小原 教孝氏 学校法人平成医療学園 常任理事(大学担当理事)/宝塚医療大学 統括長 保健医療学部 教授

## 第8分科会

定員 40名(加盟校優先定員:25名)

### 問題意識から始める 授業改善ワークショップ

本分科会は、授業改善のためのワークショップである。参加者の日頃の授業実践から生まれる悩みや疑問などの問題意識を出発点として、どうすればよりよい授業ができるかを参加者同士で議論し、互いの考え方や工夫を共有し、ブラッシュアップする。講師は全員FDの専門家であり、ワークショップをファシリテートしつつ、適宜助言を行う。申込者の方々には事前にアンケートにご回答いただく。その結果を元に、当日の具体的なプログラム構成やグループングを決定する。来年度からの授業をよりよいものにしていきたいと考えている方々に広くご参加いただければ幸いです。

ファシリテーター 榊原 暢久氏 芝浦工業大学・教育イノベーション推進センター 教授

吉田 博氏 徳島大学 高等教育研究センター 講師

西野 毅朗氏 京都橘大学 教育開発支援センター 専任講師

## 第11分科会

定員 40名(加盟校優先定員:25名)

### 現代的な社会課題に対応する 子ども家庭支援専門職養成

近年、児童虐待、ネグレクトなどの問題発生予防として、地域の子育て家庭を支援するための子育て支援、ソーシャルワークに関する専門的知識・技術が求められている。そこで、地域社会の抱える問題を理解し、解決する専門的力を形成するために、子ども家庭支援従事者を対象とする現任者研修がなされている。また、高等教育機関において、子ども家庭支援専門職としての基本的態度と適性、専門的知識と技術を習得するための教育が取り組まれている。一方で、地域子育て支援拠点においてソーシャルワークが試行されている。具体的には、保健センター・行政との連携会議に基づいた実践と要保護児童対策地域協議会と連携した実践がなされている。そこで、地域子育て支援拠点の現任者研修、高等教育機関における教育、地域子育て支援拠点の実践について討議することで、現代的な社会課題に対応する子ども家庭支援専門職養成について理解を深める。

コーディネーター 安田 誠人氏 大谷大学 教育学部 教授

報告者 新川 泰弘氏 関西福祉科学大学 教育学部 准教授

小山 顕氏 聖和短期大学 保育科 専任講師

山川 宏和氏 京都華頂大学 現代家政学部 准教授

儀賀 栄子氏 鈴鹿市子育て支援センター 前所長

## 第9分科会

定員 40名(加盟校優先定員:25名)

### 若手研究者からみた 「大学改革」

1990年代以降、文部科学省が主導する「大学改革」が急速に進められてきた。現在も変化の途上にある大学の教育現場において、「これから大学はどうなっていくのか」を最も危機感を持って受け止めざるを得ないのが、いわゆる「若手」と呼ばれる30-40代の大学教員・研究者である。本分科会では、この世代にとって「大学改革」とは何だったのか、より望ましい「大学改革」の方向性とは何かを、これまでの「大学改革」を批判的に検討することを通じて考えたい。そしてそれにより、現在の社会から求められている大学の理念や存在意義についても問いかけていきたい。

コーディネーター 水田 大紀氏 佛教大学 歴史学部 准教授

報告者 崎山 直樹氏 千葉大学 国際教養学部 講師

成瀬 尚志氏 大阪成蹊大学 マネジメント学部 准教授

古川 雄嗣氏 北海道教育大学旭川校 准教授

## 第12分科会

定員 40名(加盟校優先定員:25名)

### VUCA時代のSTEAM教育 ～価値を共創する学びの場のデザインの論理と倫理

1991年の大学設置基準の大綱化以降、日本の大学では一般教育が教養教育へと観点が変えられたものの、まだまだ専門分化された上でのカリキュラム展開が根幹にある。一方、2016年1月にMITのネリ・オックスマン教授は「創造性のクラブサイクル」により、科学・技術・アート・デザインの4領域の越境による脱専門性(antidisciplinary)の重要性を訴えている。本分科会では、Volatility(変動性・不安定さ)、Uncertainty(不確実性・不確定さ)、Complexity(複雑性)、Ambiguity(曖昧性・不明確さ)の中でのFDのあり方を、参加者との対話を中心として見いだしたい。

コーディネーター・ファシリテーター

山口 洋典氏 立命館大学 共通教育推進機構 准教授

報告者 熊野 英介氏 アミタホールディングス株式会社 代表取締役

佐藤 真久氏 東京都市大学大学院 環境情報学研究所 教授

中西 美佐氏 立命館中学・高等学校 英語科 教諭/グローバル教育推進部

原木万紀子氏 立命館大学 共通教育推進機構 特別招聘准教授

ポスターセッションでは、大学コンソーシアム京都加盟校の教職員・学生が実施する特色ある教育に関する取り組みを発表します。情報収集や、参加者間の交流の場としてご活用ください。

コアタイムには、発表者がポスター前で参加者からの質問に答えます。

## ● 申込期間 2020年1月7日(火)～1月30日(木) 【参加費支払期限: 2020年2月8日(土)】

加盟大学・短期大学の先行申込期間 2019年12月13日(金)～12月25日(水)

※大学コンソーシアム京都に加盟する大学・短期大学の方を対象に、先行申込期間を設けています。先行申込期間中は、優先定員までの受付となります。

## ● 申込方法[事前Web申込] ※本フォーラムは事前申込制となっております。 申込期間外およびフォーラム当日の参加申込受付は行っておりません。



<http://www.consortium.or.jp/project/fd/forum>

### STEP 1 お申込み(先着順)

申込みは先着順に受け付け、定員になり次第終了いたします。なお、キャンセル待ちは行っておりません。  
申込み手続き完了後は、シンポジウム及び分科会の変更ができませんのでご注意ください。

- 1 下記のURLから「メールアドレス確認(入力)フォーム」にアクセスし、メールアドレスを入力・送信してください。
- 2 「参加申込フォーム」のURLをお送りしますので、メールに記載のURLにアクセスし、画面の指示に従って申込み手続きを行ってください。  
申し込み手続き完了後に「申込完了メール」を送信します。

※「参加申込フォーム」URL通知メールが届かない場合は、メールアドレス誤入力の可能性があります。その場合は、お手数ですが、「メールアドレス確認(入力)フォーム」を再入力・再送信してください。

※当日参加されるうえで、何か配慮すべき障がいがあれば、1月30日(木)までにFDフォーラム事務局までご連絡ください。(裏面参照)

### STEP 2 参加費のお支払

【参加費支払期限: 2020年2月8日(土)】

申込み手続き完了後、払込票をお送りします。  
期日までに、コンビニエンスストアで参加費をお支払いください。払込票の取り扱い可能店は払込票の裏面に記載しております。銀行・ゆうちょ銀行などの金融機関ではお取り扱いができませんのでご注意ください。

※お支払いいただく参加費につきましては、印刷費、Webシステム運営費、通信費など、諸準備に使用いたします。いかなる理由があっても返金等には応じられませんのでご了承ください。

### STEP 3 参加証(メール)受領

参加費のお支払いが確認できましたら、参加証(メール)をお送りします。  
2月18日(火)までに参加証(メール)が届かない場合は、FDフォーラム事務局までお問い合わせください。

### 当日 参加証(メール)提示

プリントアウトした参加証(メール)をご持参のうえ、受付にご提示ください。  
※代理の方が参加される場合はFDフォーラム事務局にご連絡ください。

## ● 参加費用

所属	区分	シンポジウム・分科会	情報交換会	2日目(3月1日)昼食
加盟 大学・短期大学	教職員	2,000円	4,000円	1,000円
	学生(大学院生含)	無料	2,000円	
非加盟 大学・短期大学	教職員	5,000円	4,000円	
	一般			
その他団体・企業等	学生(大学院生含)	1,000円	2,000円	

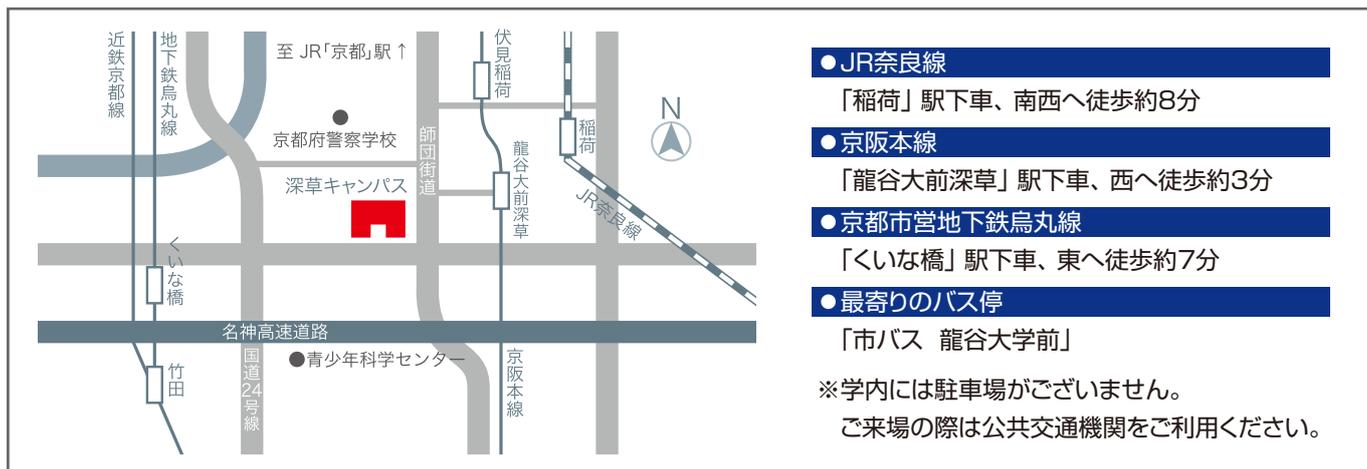
## ● 2日目(3月1日)の昼食について

3月1日は、龍谷大学深草キャンパス内の食堂、購買部は営業していません。そのため、FDフォーラム参加者用に、お弁当を事前申込制で販売いたします。(税込1,000円)

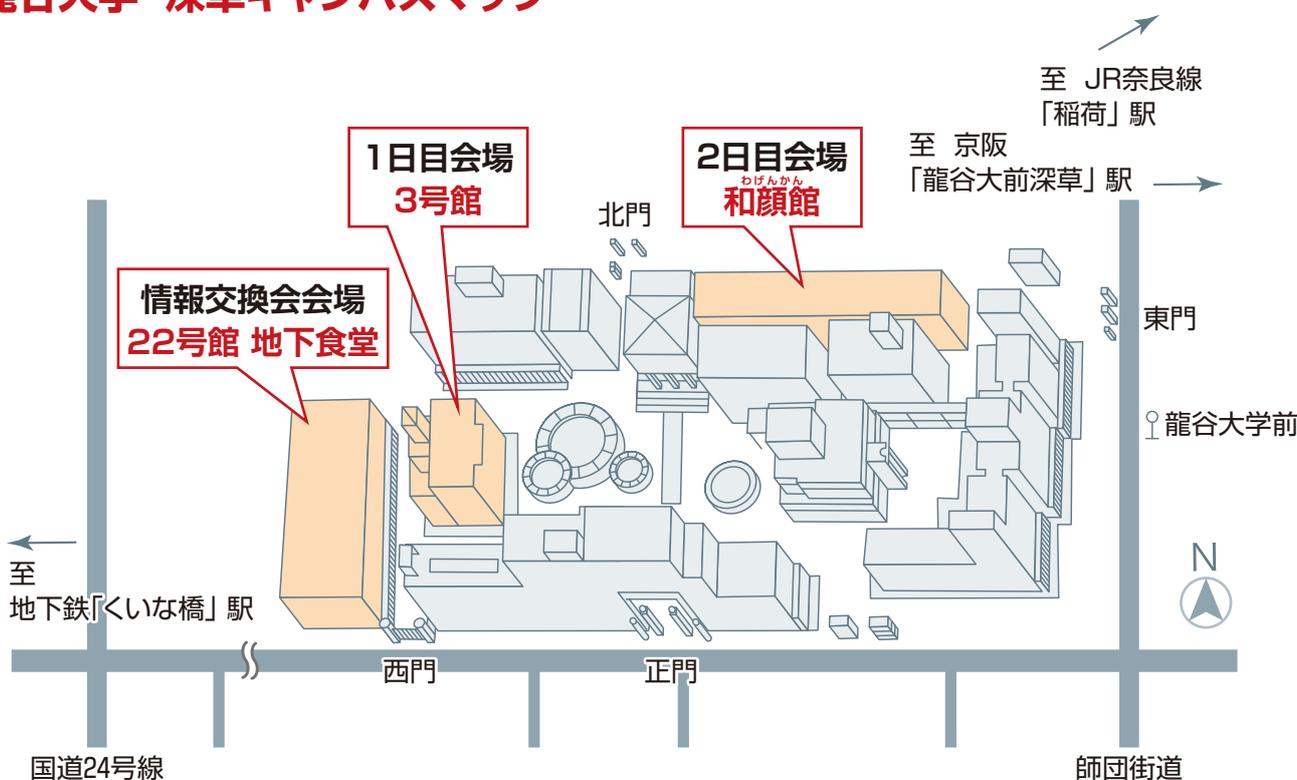
FDフォーラム参加申込みの際に昼食購入の有無を確認させていただきます。

購入希望者には、お弁当代金(1,000円)を含んだ参加費払込票をお送りいたします。

## 会場(龍谷大学 深草キャンパス)へのアクセス



## 龍谷大学 深草キャンパスマップ



### 第25回FDフォーラム企画検討委員会 ★…委員長 ☆…副委員長

★瀧本 真人 龍谷大学 国際学部 教授	西野 毅朗 京都橘大学 教育開発支援センター 専任講師
☆茂見 岳志 同志社大学 経済学部 教授	畑田 彩 京都外国語大学・京都外国語短期大学 外国語学部 准教授
小田 真隆 京都薬科大学 生命薬科学系 教授	水田 大紀 佛教大学 歴史学部 准教授
金 基淑 京都文教大学 総合社会学部 教授	三好 明夫 京都ノートルダム女子大学 現代人間学部 教授
在間 敬子 京都産業大学 経営学部 教授/教育支援研究開発センターセンター長	安田 誠人 大谷大学・大谷大学短期大学部 文学部 教授
関口 久雄 京都先端科学大学 人文学部 准教授	山口 洋典 立命館大学 共通教育推進機構 准教授
田口 真奈 京都大学 高等教育研究開発推進センター 准教授	山田 創平 京都精華大学 人文学部 准教授

## お問合せ先



公益財団法人 大学コンソーシアム京都  
The Consortium of Universities in Kyoto

教育開発事業部 FDフォーラム事務局  
〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下るキャンパスプラザ京都内  
TEL:075-353-9163 FAX:075-353-9101  
E-mail: fdf@consortium.or.jp  
窓口受付時間:火曜～土曜 9:00～17:00(年末年始を除く)